

平成30年11月9日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

一般財団法人
北海道国際交流センター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 第14回地球まつりにおけるNGO相談ブースの設置

企画実施概要： ①内容：・NGO相談ブースで来場者の相談対応
・国際シンポジウムでNGO相談員制度の紹介

②目的：函館の国際交流団体が一堂に集まる第14回地球まつりで、
広く市民のNGOの役割や、国際協力活動など様々な情報を提供す
る。また、実際に活動をしている団体には団体運営についても相談対
応をする

③対象者：国際交流・協力団体スタッフおよび一般の方 500名

2 出張者氏名 池田 誠

3 依頼元／主催団体名 地球まつり実行委員会

4 実施予定日時 平成30年10月20日（土） 10:00～15:00

5 実施場所 函館市青年センター（北海道函館市）

6 実施報告 相談窓口を開設したが、大学生を中心とする若者から、家族連れで参
加する人たちも見受けられ、幅広い層に対して、国際協力に対する関
心を高めることができた。地球まつりのブース参加者からは、今後も、
様々なイベントに出展してほしいとの依頼も多く受けた。より多くの
人たちに、国際協力をひろめるためにも、いろいろなイベントにも参加し
てゆきたい。

7 写真

	
NGO相談ブースでの様子	NGO相談ブースでの様子

（写真1）

（写真2）

以上

平成31年2月18日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
難民を助ける会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 「国際フェア2018」でのブース出展、ワークショップ開催

企画実施概要： ①実施内容
JICA東京ブースの一部に、日本国際ボランティアセンターと難民を助ける会が合同でNGO相談員ブースを設置し、国際協力の理解を深めるワークショップを難民を助ける会職員が実施した。

②対象者および参加人数
対象：来場者の親子、参加人数：20名（2回のワークショップ合計）

2 出張者氏名

稲見由美子（日本国際ボランティアセンター）、
穂積武寛、小川祐子（難民を助ける会）

3 依頼元／主催団体名 主催：公益財団法人埼玉県国際交流協会、共催：JICA東京

4 実施予定日時 平成30年10月14日（日） 10:00 ～15:30

5 実施場所 さいたまスーパーアリーナ（埼玉県さいたま市）

6 実施報告
・JICAシニアボランティアについて聞きたいとの相談を受けた。特別な技術が必要なのではと考えている方に、幅広い分野での募集があることを紹介し、近日中にJICA埼玉デスクで予定している説明会の詳細を案内した。

・ブースで自分自身は直接現場での活動に参加できないが、国際協力の必要性や国際社会の問題について訴えていきたいとの感想があった。

・ワークショップでは世界を身近に感じてもらいたいとアフガニスタンの子ども的一天を写真で紹介した。またアフガニスタンで使われているダリ語で数字を書く体験も行い、参加者は大きな声で読み方を繰り返すなど楽しく参加していた。

・相談員チラシおよび関東ブロックで作成した関東ブロックの相談員団体チラシを計100枚強配布し、相談員広報に努めた。

7 写真

	
JICA東京のブースの一部を相談員ブースとし、JICA埼玉デスクとともに相談対応にあたった	ワークショップの様子

（写真1）

（写真2）

以上

平成30年11月7日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
名古屋NGOセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名： 福井国際フェスティバル2018
- 企画実施概要： ①実施内容：福井県最大の国際交流・協力のイベントに出展。国際協力、ボランティア等に関心ある来場者に、相談対応やNGO活動紹介などを実施した。
- ②対象者および参加人数：学生、親子連れ、年配の方まで、幅広い年齢層に対応。当センターへの来場者は約50名であった。

- 2 出張者氏名 堀川絵美
- 3 依頼元／主催団体名 公益財団法人 福井県国際交流協会
- 4 実施予定日時 平成30年10月21日（日） 10:00～16:00
- 5 実施場所 福井県国際交流会館（住所：福井県福井市）
- 6 実施報告
- ・今まで、買い物をするとき、どのように作られているかを意識していなかった。フェアトレードを知ったことをきっかけに、物の背景や社会の構造を考えて選びたい。
 - ・いろいろなNGOの団体、活動があることを知った。自分でも調べたり参加したりしてみたい。
 - ・福井市にフェアトレードのお店がないので、今回買い物ができて嬉しい。フェアトレードの商品を紹介しながら「自分にできること」を周りの人に伝えていきたい。

7 写真

	
会場の様子	ブースの様子

(写真1)

(写真2)

以上

平成30年10月16日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
アイキャン

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

請負

記

1 企画名および企画概要

企画名： 長野上田高校における講演業務およびシアター&アーツうえだでの相談対応

企画実施概要： A: 長野県上田高等学校における講演
①企画内容: 同校1年生を対象とした人権平和講演会において「フィリピンにおけるNGOの活動について」というテーマで講演を行った。
②対象者および参加人数 1年生 322名
B: シアター&アーツうえだでの講演および相談対応
①企画内容: 上田町中演劇祭において、来場者にフィリピン都市部のNGOを取り巻く現状や課題を伝えるとともに意見交換を行う。
②対象者および参加人数 来場者 約100名
吉田 文

2 出張者氏名

3 依頼元／主催団体名 A: 長野県上田高等学校 廣田校長 B: シアター&アーツうえだ 代表荒井

4 実施予定日時 A: 2018年10月12日（金） 13時50分 ～ 17時45分

B: 2018年10月12日（金） 19時00分 ～ 21時30分

5 実施場所 A: 長野県上田高等学校（住所: 長野県上田市）

B: 犀の角（住所: 長野県上田市）

6 実施報告

A: 高校1年生を対象とした講演を行い、参加した生徒からは「フィリピンに行って現状を見たいと思った。貧困問題に対して行動を起こしたい。」という行動意欲を感じるコメントをいただいた。また講演後は、より深く知りたい生徒との座談会の場が設けられ、国際協力活動への関心が特に高い31名が参加した。参加者からは「自分が将来進む方向について知りたかった回答が得られた」という声もきかれ、国際協力分野におけるキャリア形成にも寄与できたと感じる。
B: イベント後、来場者を対象に相談対応を行い、7件の相談を受けつけた。「NGOや途上国が置かれた最新情報を知ることができた」という感想をいただいた。またイベント終了時間が1時間延び、22:30に業務を終了した。

7 写真



上田高校では、講演後の質問時間に多くの手があがり、国際協力やNGO活動、ODA等への関心の高さを感じた。

（写真1）



シアター&アーツうえだでは、上映会終了後に相談対応業務を行った。

（写真2）

以上

平成31年2月18日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

公益社団法人
日本国際民間協力会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 気候変動から見たSDGs～ 世界を変える市民のチカラ～

企画実施概要： ①実施内容
持続可能な社会の実現に向けて、SDGsへの理解を深める。専門機関、市民団体などの取り組みを解説する講演、パネルディスカッション。

②対象者および参加人数
一般市民87人

2 出張者氏名 大豊盛重

3 依頼元／主催団体名 公益財団法人京都市環境保全活動推進協会

4 実施予定日時 平成30年10月20日（土） 13:30 ～ 16:30

5 実施場所 京エコロジーセンター 2階企画展コーナー（住所：京都市伏見区）

6 実施報告 環境に負荷をかけないで資源を循環させるトイレなど、アフリカでの取り組みについて具体的に初めて知ることが知れて有意義だった。

貧困問題と環境問題など、国際的な問題がつながっていることが理解できたことは有意義だった。

循環型トイレの普及の方法について、持続可能な仕組みづくりまでされているところに共感した

7 写真



途上国での環境問題と自立支援について講演するNGO相談員

(写真1)



パネルディスカッションで、SDGsや環境問題について話すNGO相談員

(写真2)

以上

平成31年2月18日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

公益社団法人
日本国際民間協力会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名:	国際協力×Career～キャリアとしての国際協力を身近に～
企画実施概要:	①実施内容 アフリカなどでの国際協力活動経験のロールモデルを提示し、国際協力へのキャリア形成を目指す。
	②対象者および参加人数 中学・高校・大学生、40名

2 出張者氏名	大豊盛重
3 依頼元／主催団体名	ウガンダインターンシップCrePro
4 実施予定日時	平成30年10月24日（水） 18:30 ～ 20:30
5 実施場所	iroots LOUNGE京大前・吉田店（京都府京都市）
6 実施報告	国際協力のキャリアを選ぶうえで、NGOや他のセクターの話をまとめて聞くことが出来てよかった。 大学生のうちに、NGOでインターンやボランティアなどを経験したいと思えるようになった。 多様なNGOがあるので、自分に合った活動を探してみたいと思った。

7 写真

	
参加者を前に国際協力の中でNGOでの活動内容やキャリア形成について話すNGO相談員	参加者のディスカッションにアドバイスするために周回するNGO相談員

（写真1）

（写真2）

以上

平成31年2月18日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

公益社団法人
日本国際民間協力会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 京都洛西ロータリークラブ・例会

企画実施概要： 京都洛西ロータリークラブへカンボジアで国際協力活動を継続的に行ってきた主催者が、活動を発展させるために、NGO相談員から東南アジアの国際協力活動について、解説する。

市民による途上国への国際協力の方法として、NGO相談員が活動事例を解説、今後の海外支援の方向性の検討の一助とする。

2 出張者氏名 岡田克彦

3 依頼元／主催団体名 京都洛西ロータリークラブ

4 実施予定日時 平成30年10月26日（金） 12:30 ～ 13:30

5 実施場所 ANAクラウンプラザホテル京都（京都市中京区）

6 実施報告 講演後、「京都に世界中で活動するNGOがあることを知れて良かった。今後、もっといろいろ知りたいし、一緒に活動してみたい」との声を頂いた。

また、「NGOだけではなく、国際協力の在り方に、現地の裨益者＋NGO＋日本の企業というWIN-WIN-WINの関係を事例を挙げてもらったことは有益な情報だった」との声を頂いた。

今回の参加者は様々な業界の人たちの集まりなので、NGOの活動に限らず、SDGsについても紹介し、国際協力の潮流についても紹介できた点は良かったと思います。

7 写真



京都洛西ロータリークラブで講演する当会スタッフ（岡田克彦）

（写真1）



講演会場の様子（30名程度が聴講）

（写真2）

以上

平成31年2月18日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
関西NGO協議会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名:** 龍谷大学経済学部・法学部にて、国際協力に関する講演
テーマ:「持続可能な開発目標(SDGs)とNGOの役割」
- 企画実施概要:** ①企画内容:とりわけ地域から国際協力を推進するにあたって、SDGsを軸に、国際協力の潮流や、わが国の取り組みをはじめ、関西に拠点を置くNGOの活動を紹介し、地域から国際協力やODAの推進について考える機会を若い世代に提供し、国際協力への理解と参画を促す。また、講演後半部分については、学生を対象にSDGsワークショップを実施する。
③実施対象者:龍谷大学経済学部・法学部の国際特別講義『国際NGO論』受講者を中心に40名の大学生

2 出張者氏名 谷川詩織

3 依頼元／主催団体名 龍谷大学経済学部(非常勤講師高橋美和子)

4 実施日時 平成30年10月3日 (水) 13:15～16:30

5 実施場所 龍谷大学経済学部 深草キャンパス21号館407(京都市伏見区)

6 実施報告

- ・講演を通じて参加者は、「世界の遠い国の課題」が物や経済を通じて私たちの生活と繋がっていることを知り、ワークショップ等を通じてSDGsを現実の社会に照らし合わせながら理解・考える機会となったようである。ひとつの課題の解決のためにSDGsの複数のゴールが関連していることを感じる機会とした。
- ・参加者の感想から、世界で起っている課題やそのつながりを知り、衝撃を受けた学生が多いことが伺えた。「自分のまわりの人たちに伝えていくことが大事」「何も知らない、ということが一番怖い」「質の高い教育を自ら受けて、色んな考え方、人々、価値観を受け入れることができるように学び」たい、など、知ること・伝えることの重要性を感じたという感想が多く見られた。

7 写真

	
講演中の様子	ワークショップ中の様子

(写真1)

(写真2)

以上

平成31年2月18日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
関西NGO協議会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名：**青年海外協力隊募集説明会「国際協力するなら、民間NGO or JICA海外協力隊」における講演会とブース出展
- 企画実施概要：**
- ①実施内容：
青年海外協力隊大阪府OB・OG会主催 セミナーにて、民間による国際協力・ボランティア活動について講演を実施。その後、JICA進路相談カウンセラー、協力隊経験者とともに、NGO相談員として国際協力ボランティアの活動に関する質問に対応した。
 - ②実施対象者：
国際協力ボランティアに関心を持つ社会人、教員、学生17名

2 出張者氏名

高橋美和子

3 依頼元／主催団体名

青年海外協力隊大阪府OB・OG会

4 実施日時

平成30年10月7日（日） 10:55～15:20

5 実施場所

大阪ボランティア協会会議室（大阪市中央区）

6 実施報告

- ・NGOに関心を持つ参加者も多く、JICAボランティアと民間との活動の違いについて熱心に話をきき、質問も多く受け付けた。
- ・教員の参加が多く、JICAボランティアを経験した後の就職先として、NGOを考えている参加者の相談に応じたが、教職員に比べると社会保険制度、福利厚生、給与面などに大きな差があり、敬遠される一因かと思われる。

7 写真



講演の様様



終了後の質疑応答

(写真1)

(写真2)

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 福知山淑徳高等学校での国際協力についての講演

企画実施概要： ①実施内容
国際協力・多文化共生、特にネパールの生活・文化・震災後の状況などについて講義を行う。また外務省NGO相談員およびNGOと外務省との連携についても説明を行う。

②対象者および参加人数
インターアクトクラブに加入している1～3年生 36名
教師及び外部聴講者 4名 計 40名

2 出張者氏名 坂西 卓郎

3 依頼元／主催団体名 福知山淑徳高校

4 実施日時 平成30年10月19日（金） 11:00～12:30

5 実施場所 福知山淑徳高等学校（京都府福知山市）

6 実施報告 福知山淑徳高校のインターアクトクラブに加入している生徒を対象にNGO相談員として国際協力、多文化共生についての講演を行った。また、講演内容は対象生徒がネパールの震災支援活動を行っていることから、ネパールの生活をはじめ、震災後の状況などを中心とした。

参加者の感想：ネパールの震災後、復興支援活動として募金活動を開始し、現在もお続けられているが実際支援先の状況が分からなかった。そのため、今回の講演で支援先の状況を知ることができて良かった。今後も自分たちのできることを広げていきたいと思った。今度の文化祭でも募金活動を頑張ろうと思った。

今回の主な目的として、対象生徒が支援を行うネパールの震災後の状況を知ってもらったことがあったが、上記の感想がでたことから今回の目的は達成されたと思われる。また、NGO相談員についてもPRすることができた。

7 写真



(写真1)

(写真2)

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 関西学院大学での国際協力についての講演

企画実施概要： ①実施内容
関西学院大学教育学部の学生に対し国際理解、国際交流、国際協力の実践事例研究をテーマにアジアの農村の現状と課題、日本の国際協力の取り組みについて講演をする。

②対象者および参加人数
教育学部「国際理解」授業履修者 158名

2 出張者氏名 坂西 卓郎

3 依頼元／主催団体名 関西学院大学 教育学部

4 実施日時 平成30年10月19日（金） 15:00～16:30

5 実施場所 関西学院大学（兵庫県西宮市）

6 実施報告 関西学院大学教育学部において「国際理解」授業履修者に対して、アジアの農村の現状と課題、日本の国際協力の取り組み事例を中心とした講演を行った。また、外務省とNGOとの連携について言及し、外務省NGO相談員制度のPRを行った。

今回、教員を目指す学生を対象に多文化共生や国際協力についての講演を行い、国際社会に対して理解を深めてもらうことを主な目的としたが、実際熱心に聴講していただき講演後も多くの質問があがったことからその目的は十分達成されたと思われる。
また、予想していた対象者の80名を大きく上回った158名の方に聴講していただけたことも成果の一つであったと考える。全員に相談員チラシを配布してPRを行った。
将来教師となる方たちに、外務省とNGOとの連携や、NGO相談員の制度などを説明したことは有意義であったと思われる。

7 写真



(キャプション) NGO相談員制度及び外務省との連携について説明しているところ



(キャプション) 会場の全景

(写真1)

(写真2)

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりに報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名: 国際協力についての講演および交流

企画実施概要: ①実施内容
 栢山小学校を当会のNGO相談員とアジアからの研修生3名で訪問し、4年生の児童を対象にNGO相談員が国際協力についての講演を、また研修生が出身地域の紹介やそれらの地域が抱える問題について講演を行う。また、研修生たちと児童とが交流する時間を設ける。

②対象者および参加人数
 栢山女学園大学付属小学校 4年生 89名

2 出張者氏名 坂西 卓郎

3 依頼元／主催団体名 栢山女学園大学付属小学校

4 実施日時 平成30年10月23日（火） 12:10～13:45

5 実施場所 栢山女学園大学付属小学校（愛知県名古屋市中区）

6 実施報告 対象校は、愛知県で有名な女子のみを対象とした私立小学校であった。今回は4年生が対象とのことで、外務省とNGOの連携の話をした後、5歳以下の子どもたちの死亡率の話をワークショップ形式で実施し、その後、ミャンマー、ネパール、インドネシアの研修生の地域の話を提供した。

子どもたちは大変積極的で、こちらが質問や問いを投げかけると積極的に答えてくれた。また授業の後、子どもたちと一緒に給食を食べることでより交流が深まった。食事中、こちらへの質問が途切れないぐらいで、特に国際協力を仕事にすることに関しての質問が多く寄せられた。

また他にはちょっとしたハプニングがあり、インドネシアの研修生がイスラムであるのに間違えて豚肉を食べるというシーンがあった。子どもたちが大慌てで対応してくれたが、これも国際理解を深める出来事に繋がったと思われる。

7 写真



（キャプション）子どもたちに問いを投げかけているところ

（キャプション）給食の時間、子どもたちとの交流の様子

（写真1）

（写真2）

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりにご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名:

学校法人奈良育英学園 育英西中学校・高等学校での国際協力についての講義

企画実施概要:

①実施内容

国際協力・多文化共生について講義を行う。また、外務省NGO相談員およびNGOと外務省との連携についても説明を行う。

②対象者および参加人数

1年生 42名

教師及び外部聴講者 3名 計 45名

2 出張者氏名

坂西 卓郎

3 依頼元／主催団体名

学校法人奈良育英学園 育英西中学校・高等学校

4 実施日時

平成30年10月31日（水）

10:30～12:00

5 実施場所

学校法人奈良育英学園 育英西中学校・高等学校（奈良県奈良市）

6 実施報告

対象校は、国際バカロレア候補校に女子校としては日本初の認定を受けるなど、国際教育や国際理解、国際交流を進めている。

対象校の今後の活動および国際協力の理解を深める一助として、国際協力の活動について本会の研修事業を例に挙げ、具体的理解を図った。

参加者の感想:

今後、タイ・バンコクにある学校との国際交流を進める上で、交際協力の具体的な活動を知ることができ、今後何をしていくべきか考える時間となった。

また、グループディスカッションを通して研修生の生の声を聴くことで、今後の活動の刺激となった様子であった。

7 写真



(キャプション) NGO相談員制度及び外務省との連携について説明しているところ

(写真1)



(キャプション) 会場の全景、参加した生徒は熱心に聴講していた。

(写真2)

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名:** 2018年度JICAボランティア説明会
- 企画実施概要:** ①実施内容
JICA中国主催 2018年度JICAボランティア募集説明会参加
②対象者および参加人数
JICAボランティアや国際協力に関心のある来場者 5名

- 2 出張者氏名** 角免昌俊、田邊圭
- 3 依頼元／主催団体名** 広島県JICAデスク／JICA中国
- 4 実施日時** 2018年10月14日(土)13:30-16:00
- 5 実施場所** まなびの館ローズコム(福山市生涯学習プラザ)(広島県福山市)

6 実施報告

JICA中国主催のJICAボランティア募集説明会へ団体職員2名が参加し、国際協力に関心のある来場者に対し、弊団体における国際協力活動および国内外を含めた活動の紹介や、協力隊参加時の体験談ふまえたパネルトークにも参加した。

団体職員2名はJICAボランティアOVでもあることからボランティア時代の体験談だけでなく、NGOでの活動なども踏まえながら、話をすることができ、帰国後の進路についての国際協力NGOへの選択肢なども視野に入れながら参加者はより具体的なJICAボランティアへの参加を考えて頂くことができた。

7 写真

	
団体活動紹介	パネルトークの様子

(写真1)

(写真2)

以上

平成31年2月18日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名: JICAボランティア説明会での講演
企画実施概要: ①実施内容
JICA中国主催 2018年度JICAボランティア募集説明会参加
②対象者および参加人数
JICAボランティアや国際協力に関心のある学生 12名

2 出張者氏名 森口さおり
3 依頼元／主催団体名 広島県JICAデスク／JICA中国
4 実施日時 平成30年10月19日 (金)
5 実施場所 岡山大学一般教育D棟D31教室(岡山県岡山市)

6 実施報告 JICA中国主催のJICAボランティア募集説明会にて、国際協力に関心のある学生を対象に、弊団体の国際協力活動をはじめ、国内での災害支援活動を含めた活動の紹介を実施した。
大学1年生から4年生まで様々な学部の学生が参加し、説明会後には30分ほど教員・元JICA協力隊隊員を交えてのアットホームな質疑応答の時間が設けられ、弊団体の海外での活動の歴史や、今後の活動の予定などをお話した。学生からは、国際協力でのキャリアを作っていくに当たって今からしておくべき事は何か、という質問があった。

7 写真

	
団体の海外における活動を紹介	これまでの自身のキャリアを例に紹介

(写真1)

(写真2)

以上

平成30年10月23日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名 特定非営利活動法人
えひめグローバルネットワーク

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名:

愛媛県立川之江高等学校 総合的な学習講師

企画実施概要:

①実施内容

国際理解講座専門講師。国際理解、国際交流、海外ボランティア(青年海外協力隊 NGO活動)について講義する。「ODAガール&主夫ボーイ」等、視覚教材を活用してODAに関する関心を高め、四国のNGO活動やフェアトレードに関する動きについて紹介するとともに相談対応を行う。

②対象者および参加人数

川之江高等学校の学生:約215名

2 出張者氏名

菅 未帆

3 依頼元／主催団体名

愛媛県立川之江高等学校

4 実施日時

平成30年10月2日 (火) 15:50 ~ 16:40

5 実施場所

愛媛県立川之江高等学校(愛媛県四国中央市)

6 実施報告

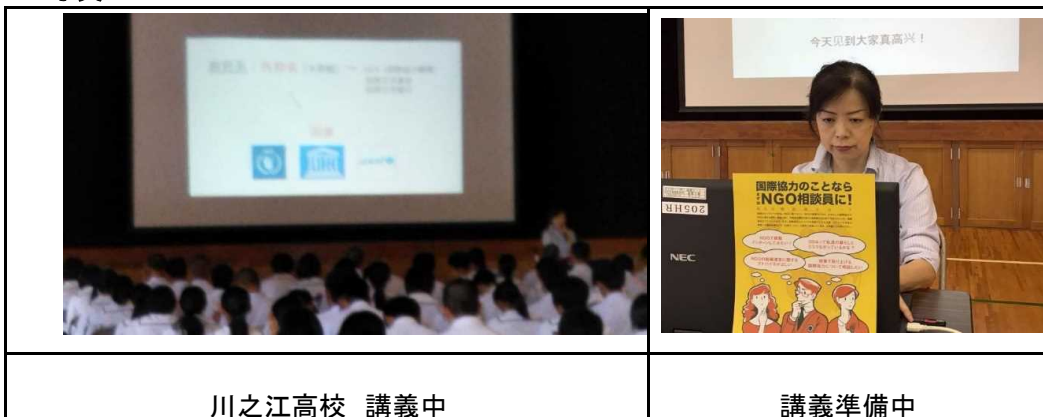
参加者からの声

①国際協力・NGOの仕組みが今までわかっていなかった。今日話を聞いていると、国々によって文化が違う中、語学を学んだり、試験を受けたり、大変なことも多いのだと思った。そんな中でも、国や文化が違ってても人が人を思う気持ちは変わらないのだと思い感動した。こういった国の活動にも積極的に関わっていくことで、世界の貧困をなくしていけるなら、もっとボランティアなどに参加していきたいと思う。

② 世界でもっとも裕福な8人=下位50%→36億7500万人という言葉にとてもしびりました。貧富の差はもちろんあるけれど、これほどの差があるのは、少し違和感を感じました。また、日本はかつて援助される側で、高速道路、新幹線なども援助を受けて、これらの物が作られていることを知って、私にも何か世界のために援助ができることを探し、活動していけたらいいなと思った。

③ 国際協力は世界が発展していくために必要不可欠なものだと思いました。そして、心に響いた言葉は「日本も世界の一員、日本は世界の中にある」。日本も昔は助けられた側であったので、無償資金協力なども必要だと理解できた。また、国際協力に参加する方法はたくさんの職種があって、それぞれに合ったことで海外の人たちを助けられることを知り私も興味がわきました。

7 写真



(写真1)

(写真2)

以上

平成30年10月31日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名 特定非営利活動法人
えひめグローバルネットワーク

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名: かがわ国際フェスタ2018

企画実施概要: ①実施内容
相談ブースを設けて市民の国際協力に関する質問や相談に対応するとともに、NGO相談員のチラシの配布・ポスターの展示を行うことで普及啓発を行う。また、冊子「四国・国際協力NGOとODA」、ESD・SDGs関連資料等の配布を行うことで、四国の国際協力団体の活動についての広報を行う。

②対象者および参加人数

一般市民: 約4,000人

2 出張者氏名

竹内よし子

3 依頼元／主催団体名

かがわ国際フェスタ実行委員会(香川県、高松市、独立行政法人国際協力機構四国支部、公益財団法人香川県国際交流協会)

4 実施日時

平成30年10月8日 (月) 10:00 ~ 16:00

5 実施場所

アイパル香川館内及び正面玄関前広場(香川県高松市)

6 実施報告

参加者からの声

①国際理解教育のネタを探すには最適の機会だと思う。JICA、国際協力NGO、国際交流団体、フェアトレードなど沢山の資料・情報を一気に収集できて助かった。情報収集に困っている先生も多いので、もっと教員がこういう機会に参加したら良いと思う。

②「国際協力とNGO」「世界でいきる。日本がいきる。」「ODAガール&主夫ボーイ」の冊子は初めて見かけた。読みやすくデザインも良く、外務省がこういうちゃんとした広報資料を提供できるのは良いと思う。

③高校生外交官プログラムでニューヨークに行き、SDGsのことを勉強してきたが、かがわ国際フェスタで同じSDGsのマークがあっ
ていろんな情報があってびっくりした。世界と香川がつながってる感じがして嬉しい。他のみんなにも知って欲しい。

7 写真



国際協力に関する情報を提供

(写真1)



NGO立上げについて相談対応中

(写真2)

以上

平成30年10月23日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
えひめグローバルネットワーク

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名:** 愛媛県立西条高等学校「探求一有法子」
- 企画実施概要:**
- ①実施内容
国際理解、国際交流、観光分野について講義。「ODAガール&主夫ボーイ」等視覚教材を活用してODAに関する関心を高め、四国のNGO活動やフェアトレードに関する動きについて紹介するとともに相談対応を行う。
 - ②対象者および参加人数
西条高等学校の学生: 約90名

2 出張者氏名

菅未帆

3 依頼元／主催団体名

愛媛県立西条高等学校

4 実施日時

平成30年10月18日 (木) 14:15 ~ 15:05

5 実施場所

会場名: 愛媛県西条高等学校(愛媛県西条市)

6 実施報告

- 参加者からの声
- ①国際的な仕事について、今までは戦場や貧しい国へ医師、看護師が行くこと、自衛隊として行く、井戸や建物をつくる日本の技術を教えることだけだと思っていたが、青年海外協力隊、NGOなどを通じて世界に貢献したり、自分の得意なことや専門分野で世界の困っている人を助けることができると知って、もっと国際的な仕事について知りたいと感じた。
 - ②国際協力には様々な形があることを理解した。世界との付き合い方は資金協力だけでなく経済協力など様々な方法があり、異文化の壁があっても気持ちは万国共通というのを聞いて、世界を思う事は同じだと感じた。AIやITが発展する中でそういった機械に負けない強みは地元力であり、地域を大切にすること、知ることは大切だと思った。
 - ③一番驚いたことは196の国や地域の中で146もの国や地域が飢えや貧困に苦しんでいるということ。また、資産についてもトップ8人の資産が36億人の総資産に値するということにも驚きました。私はインバウンドに興味があり、外国人に対して自分ができることを何かしたいという思いや海外に行くだけでなく、国内にいながら来日者を中心に手助けできることや、企業と連携し海外へ地域の売り込みができることを知り、非常に有意義な時間だった。もっと自分で調べてみたいと思うことが増えた。

7 写真

	
講義中	講義終了時

(写真1)

(写真2)

以上

平成30年10月31日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名 特定非営利活動法人
えひめグローバルネットワーク

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 国際ふれあい広場2018出展（ひろめ市場よさこい広場）

企画実施概要： ①実施内容
当団体が平成27年度NGO相談員として作成した「グローバル・ローカルかるた」や外務省広報資料の「ODAガール&主夫ボーイ」「世界でいきる。日本がいきる。」の冊子を活用し、持続可能な社会づくりのために必要な国際協力活動やSDGsの取り組みを一般市民や学生等に広く紹介し、ODA広報とNGO活動の広報を行う。また、高知大学のフェアトレードを推進する学生グループ「すきっぷ」と協働出展し、身近な国際協力としてフェアトレードを紹介する。

②対象者および参加人数
一般市民：約1,000人

2 出張者氏名

竹内よし子

3 依頼元／主催団体名

公益財団法人 高知県国際交流協会

4 実施日時

平成30年10月21日（日） 10:00 ～ 16:00

5 実施場所

会場名 ひろめ市場よさこい広場（高知県高知市）

6 実施報告

参加者からの声

①昨年は台風のため開催中止となったこともあり、今年は、出展者もイベント出場者もより一体となって入念に準備して大いに盛り上がった。ひろめ市場というオープンスペースでの開催で、留学生も沢山来られていて交流ができたこと、大学生も主体的・積極的に参加できたこと、NGOと連携できたことが良かった。来年もぜひコラボしたいと思う。

②参加団体同士が相互に交流し、お互いの活動を知ることができたいい機会になった。高知の国際交流・国際協力の仲間がつながってきている感じがする。

③娘が国際協力に関心があるので、このイベントと一緒に参加できて良かった。国際協力は難しいと思っていたが、ODAマンガを読むことから入るととてもわかりやすい。今までに見たことのない資料が沢山あってとても勉強になり、国際分野に進むキャリアを考える上で大変参考になった。

7 写真

	
大学生「すきっぷ」	ODAやNGOについて説明

（写真1）

（写真2）

以上

平成30年10月31日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名 特定非営利活動法人
えひめグローバルネットワーク

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 松山市立余土小学校

企画実施概要： ①実施内容
「世界に学ぼう」～様々な国の生活事情を知り、同世代の人たちのために自分たちでできることを見つけ、実践しよう～国際理解講座。国際理解、国際交流、海外ボランティア（青年海外協力隊 NGO活動）について講義する。

②対象者および参加人数

小学6年生 140人

2 出張者氏名

竹内よし子 菅 未帆

3 依頼元／主催団体名

松山市立余土小学校

4 実施日時

平成30年10月26日（金） 14:00 ～ 15:30

5 実施場所

会場名 松山市立余土小学校（愛媛県松山市）

6 実施報告

・これまでアフリカスマイルプロジェクトを5年続けてケニアにシューズを送り続けてきたが、相手の顔が見えないこともあり、自分達で新しい国際協力を模索したいという相談を受け、出張サービスを実施した。様々な国の情報を知りたいという要望に沿い、モザンビーク、フィリピン、中国の3カ国について学び、愛媛県内のNGOがそれぞれの国で現地NGOと組んで一緒に国際協力を実施している様子を伝え、顔が見える国際協力活動を学ぶ機会を提供。竹内より、モザンビークの都市部と農村部の様子について紹介。菅より、中国の経済格差、言葉（中国語）理解の面白さ、現地や中国支援者と一緒に農村支援する方法を紹介。（フィリピンについては、別途松山市の派遣制度を活用して実施するようアレンジしており、内容は障害児教育について紹介。）

・参加者からの声

①モザンビークは同じ国の中なのに、都市部と農村部の暮らしがとても違ってびっくりした。日本と違って開発・発展の仕方がバラバラだと思った。
②給食があつたりなかったり、あっても日本とは違うこと、運動会もないことなど、沢山の違いや似ているところもあることがわかって良かった。
③いろんな国のことを、今まで見たことのない写真で紹介してもらって勉強になった。自分で調べてもわからないことをその国に行ってるNGOの人たちから直接教えてもらえたのが良かった。自分達でも国際協力活動ができそうな大きな勇気を持てた。

7 写真



モザンビークについて紹介

（写真1）



相談員について説明

（写真2）

以上

平成31年2月18日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
沖縄NGOセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名：ペルーってどんな国？

企画実施概要：①実施内容
ペルークイズや言葉クイズ、ゲームを通して、世界の多様性について考えるワークショップを行った。
②対象者および参加人数
児童館利用児童20名

2 出張者氏名 上原真紀

3 依頼元／主催団体名 壺屋児童館

4 実施日時 2018/10/11 (木) 14:00 ～ 17:00

5 実施場所 壺屋児童館(住所:沖縄県那覇市)

6 実施報告
普段、子どもたちが外国人や外国文化を接する機会がないため、この時期から国際感覚を養うためのワークショップを開催してほしいということから、今回の出張サービス実施に至った。
動物の鳴き声クイズやペルークイズでは、普段当たり前と思っていることが世界では違っており、言葉や文化の多様性について気づきかけとなったようだ。
後日、担当者から、その後も子どもたちがペルーについて調べたり、国旗カードで遊んだりする姿が見えると報告があった。今回のワークショップをきっかけに、世界に興味を持ち、国際協力分野が将来の選択肢の一つになることを期待する。

7 写真



(写真1)

以上